

平成24年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	国際・国内交流推進事業		担当部署	市民環境部 文化交流推進課	
総合計画体系			根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	4	活力とにぎわいあふれる鳴門づくり	事業期間	開始	昭和 ▼ 49 年度
政策(中項目)	2	観光発信！魅力都市なると			未定 ▼
(小項目)		国際・国内交流			
施策	2	国際・国内交流の推進			
基本事業	1	交流のひとづくり			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民及び各姉妹都市関係市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市と姉妹都市の交流を推進することで、市民同士の相互理解・国際理解を深め、両市の友好関係を強化することを目指す。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	単位
		使節団新規参加者の割合(リュ市)／鳴門市	(53)	54	(55)	60	(55)	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	23年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	第19回鳴門市姉妹都市親善使節団(泉市長団長以下26名)をドイツ・リュネブルク市へ派遣。市民交流を深めた。また、リュネブルク市より東日本大震災のための義援金を受け取り、鳴門市は親善交流都市である会津若松市へ義援金を送金した。10月には中国湖南省張家界市との友好都市提携を締結。					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		22年度実績	23年度実績	24年度目標	25年度目標	26年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 親善使節団参加者数(リュ市)／鳴門市	(30)	26	(30)	30	(30)	人
	2 使節団への学生の参加者数	—	2	—	10	—	人
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	使節団新規参加者の割合(リュ市)／鳴門市	53	54	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%

コスト分析		22年度実績	23年度実績	24年度	25年度	26年度	単位
事業費 (財源内訳の合計)		1,221	1,420	2,244	—	—	千円
財源内訳	国	0	0	0			
	県	0	0	0			
	地方債	0	0	0			
	その他	0	0	0			
一般財源		1,221	1,420	2,244			
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		9,776	9,776	9,776	—	—	人
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	1.5	1.5	1.5			
	臨時職員等(2,012千円/人)						
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		10,997	11,196	12,020	—	—	千円

◎平成24年の実施状況(DO)

現在の実施状況	平成23年4月から平成24年4月までの間に、会津若松市を応援する鳴門市民の会より、会津若松市へ計3回の支援金を送金し、会は解散となった。平成24年10月にはリューネブルク市から第19回親善使節団が来鳴予定。まもなく40周年を迎えるリューネブルク市との交流について、使節団の相互派遣のあり方等、今後の交流の進め方について検討していく。
---------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6 /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	歴史的背景を基に生まれた姉妹都市交流であり、多くの成果も残していることから、今後も末永く継続する必要があるが、交流に参加する人が一部の市民に偏らないよう工夫する必要がある。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 国際・国内交流の推進 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
2.有効性の評価		理由等所見欄	
6 /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	事業対象は適切であるが、対象者の参加がさらに増えるよう交流事業の内容を考える必要がある。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業目標が達成できるような事業内容になっている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業対象は適切である。		
	<input type="checkbox"/> ④ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。		
3.効率性の評価		理由等所見欄	
8 /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		

◎今後の方向性(ACTION)

課題等	リューネブルク市との今後の交流について：両市の親善使節団はそれぞれまもなく20回を数え、両市が姉妹都市盟約を締結してから40年が経とうとしている。この節目に、今後の姉妹都市交流をどのように進めていくのかを考える必要がある。現在、姉妹都市交流に積極的に参加している市民は高齢化が進んでおり、若い世代の交流参加が必要である。現在の交流に青少年層の参加を促すことが急務である。交流内容については、第19回リューネブルク市親善使節団が来鳴する際に、両市長の面談の場を設け、今後の姉妹都市交流について協議・方向性を決定する必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2

↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。

今後の改革案	実施予定時期	平成25年度 ▼ 月未定 ▼
	どのように改革するのか	親善使節団に青少年枠を設け、大人の参加者とは違った内容のプログラムに参加してもらおう。(例:宿泊はホームステイ、滞在中は学校訪問・授業参加など。)それらを通して、若い世代同士の交流の場を設け、両市の青少年の国際理解を深めるとともに、将来の両市の日独交流を担う人材の育成につなげる。

◎外部評価

評価結果(委員)	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
評価結果(市民評価員)	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
今後の改革の方向性	戦略的な目標設定を行ない、目標達成及び成果向上に向けた取組を行うとともに、訪問事業に関しては青少年層の交流を目指すなどの改善をする必要がある。				